

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家	ユニット名	こもれび
所在地	宮城県名取市手倉田字山212番地		
自己評価作成日	平成23年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご利用者が互いに協力し合い穏やかに安心して生活して頂けるような環境や空間作りに努めている。又、昔ながらの建物の構造を活かしつつ四季を感じて頂けるような支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR名取駅から車で10分閑静な自然に恵まれた小高い丘の一角に「グループホームこもれびの家」がある。法人は多くの事業を展開しており、同敷地内にも他の事業所を併設して双方の協力関係は構築されている。開設して15年、入居者はその自然を感じながら家庭的な雰囲気の中で「ゆったり・いっしょに・たのしく・ゆたかに」ホームの理念を行動規範として生活している。昔からのかかりつけ医を大切にしており、ホームの協力医・訪問看護師との連携により2名の看取りを行った。また、月1回の家族面談を設け、そこでの意見等を介護計画に反映している。プランの説明や話し合いがあったとして、家族アンケート結果の評価も高かった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 名取市グループホームこもれびの家)「ユニット名 こもれび」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念があり、今年度はそこから各ユニット毎の目標を掲げ、職員だけでなく御家族様の目にも触れる場所へ掲示し、職員の意識を高め実践に努めている。	事業所理念に加え、昨年達成計画とした各ユニットの目標を掲げ「利用者の笑顔の引き出し」に向け努力している。年3回理念を見直し会議等で話し合っている。理念は各ユニットの玄関に掲示し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の小学校からの招待で学芸会に出向いたり、保育所との交流会も行っている。又、月に2回地域の方のボランティアで『お話し会』に来て頂いている。	暖かい日は十三塚公園を30分のコースで出掛けている。一方震災後、近くに仮設住宅が建てられ車の往来が激しくなった為、地域の住宅街までは出掛けていない。小学生や園児とは交流し、ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、ご利用者様の様子や対応等お伝えしている。又、実習や研修・見学等受け入れており、表情や声のトーンにも気配りが必要なこと等説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットからホーム長が会に参加している為、そのユニット毎の取り組みやご利用者様の様子等話し合い、それを毎月行われているスタッフ会議の中でも推進委員様より上がった意見を共有しより良い支援に向けて取り組んでいる。	会議は震災月以外は実施している。市の保険課長も毎回出席している。ホームの状況報告・風邪対策後、推進委員から福島の流通物は大丈夫なのか？ホームからその辺は栄養士が管理している。など双方向に話し合われている。(会議議事録より)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課から、週末にも関わらず、運営推進会議への定期的出席をして頂いている。その他、必要な都度連携を図っている。	市の担当者とは常に連絡を密にしている。入居者の難しいケース等に直面した際にも、地域包括職員・関連部署・医師等と相談しアドバイスを頂いている。社協主催の「家族の会」に出席し認知症の理解を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていない。新規で入所されたご利用者様に対し、3日間の行動記録表を細かく記録し、まずは職員がいち早くご利用者様の状況を把握し、声掛け・対応の統一を図ることにより、落ち着いて生活して頂ける様支援に努めている。	身体拘束の弊害については全職員が研修等で熟知しており、拘束のないケアに努めている。新規入居者で、まだ、施設に馴染まない方の対応について、職員間で充分話し合い不安を与えないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな傷や内出血も見落とさず、必ず記録に残し報告し合い話し合いの場を設けている。又、月に1回行われているスタッフ会議の場でも検証を行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係文書の回覧や外部研修等で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書等の文書を渡し、契約の締結時に今まで御家族様が迷ったり不安に思われた事についてはより細かい説明を加えながら御理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族面談や運営推進会議でも各ユニットから2名ずつ御家族様に推進委員になって頂いている為、ご意見やご要望については何かとやり取りが多く、逆に相談にも乗って頂いている。	毎月の家族面談で意見や要望等聞いている。体調の不安定な方が結婚式の招待状を貰ったが、医師のサポートもあり出席できた。本人は大変喜び記録に残し、意欲的に日記を付け始めるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各ユニットで勤務している為、現場で困っていることや解決されていない問題等においても、所長に相談し解決に向け取り組んでいる。又、スタッフ会議やケアプラン検討会においても話し合いの機会を設け、業務や支援に反映している。	スタッフ会議やケアプラン会議等で意見を聞く機会はある。研修への参加は、テーマを職員に聞いて決定し、自主研修なども本人の受けたいものを提案して参加し、日々のケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にご利用者様の状態の把握に努めている為、急な外来や人員の確保が難しい時も対応して頂いている。その中で職員の支援の悩みなど把握し、会議で検討したり、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員へ知らせ、希望や段階に応じての参加を勧め、各種研修へ職員も意欲を持って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や宮城県グループホーム協議会実践報告会への研修を通じて、事業所以外の人材の意見や経験を支援に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人様から直接話を聞いたりグループホームを見学して頂き生活の様子の説明をするなど行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に自宅に伺い話を聞いたり、グループホームの見学して頂き都度、説明を兼ねた話もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の言動を細かく記録しながら対応し、職員、管理者で検討した後、ご家族と相談し検討行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目上の方々である事の認識を職員間で持っており、日頃の生活を送るうえで教えて頂く場面を多く持てるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には温かい雰囲気を出迎えるよう努めている。来訪が困難なご家族様に対しては職員が電話にて都度報告しておりその際、相談ごとや要望等の話も聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が今まで通っていた病院に通って頂いている。馴染みの方々も気兼ねなく来訪出来るよう環境づくりにも努めている。	本人の希望する馴染みの美容院やスーパーへ出掛けたり、ボランティアの「お話し会」や踊りの披露、親戚や友人の来訪もある。3ユニットを活かしての入居者同士の交流もあり関係性を途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が、ご利用者様同士の関係性を把握しており、普段のコミュニケーションや役割、余暇活動を通じ支え合える関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了されたご家族より、ボランティアの申出があり、今後、来訪された際にはこれまでの関係性を踏まえたくうで支援に努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様やご家族と話をして意向に沿えるように都度、検討している。又、気づきを大切に職員間で共有している。	担当制を取っており、職員一人ひとりが日々のケアから思いや意向の把握に努めている。新規の入居者で入居の理解が出来ない方に、その思いを受け止めて職員間で話し合い意思統一を図り支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員がご利用者様のバックグラウンドを把握しており、これまでの生活歴を活かして頂けるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな物事の変化を見落とさないように注意し支援行なうよう努めており、職員間での情報の共有も行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケアプラン検討会にて話し合い行なっており、家族面談の際に経過や状況を説明し、ご家族からの要望を踏まえながら計画に反映させている。	気づきの記録や申し送りノートを活かし会議等で話し合い、月一回の家族面談で意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリング・介護計画の見直しは毎月行っており、家族アンケートの評価は高かった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の言動の変化や職員の気づきをケース記録や申し送りノートに記録し情報共有を行ない実践結果を踏まえて計画の見直し行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が宿泊する際に必要に応じて食事や休んで頂く場所の提供等を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物へ出かけたり、今まで通いなれた病院への受診を続けている。又、野菜や魚・肉は近くのお店を利用しており、震災の時も野菜を届けて頂いたりと改めて繋がりが大事だという事を再認識した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が以前より通っていた医療機関で診て頂けるよう、ご家族の協力をいただきながら支援している。	かかりつけ医を継続しており家族と共に受診し、困難な場合は職員が対応し結果を報告しあっている。週一回の訪問看護師による健康管理、協力医の往診診療等、協力体制は確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を行っておりご利用者様の体調の変化があれば都度、報告、相談をし適切な指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに病状伺いへ出向き、ご家族や医師から状態を聞き、ご本人様の体調を第一に考慮しながら、対応可能な時期での早期退院が出来るよう相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏まえながら、ご家族へは医師や所長、職員と話し合いの場を設けている。又、訪問看護との連携も密にして取り組んでいる。	今回は看取りを2名行っている。家族の協力も頂いた。対応指針・意思確認書を交わして段階的に話し合いが行われ看取りを実施している。職員間の研修で共有化を図り、医療との連携は構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を定期的に受講しており急変時、的確に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練やマニュアル研修を行っており、隣接している施設からの協力を得る事を想定し応援にかかる時間や避難誘導の仕方、時間を計り消防署の指導を受けながら毎回取り組んでいる。	年1回消防署立会いで合同の避難訓練を夜間想定で行った。ホーム独自の訓練はまだであり、課題の2階ユニットの避難方法、部屋の避難済み確認の工夫等出来る事から実施されたい。自家発電機2台を確保した。	身体の状態低下に伴い入居者を不安なく階下へ誘導する為にも、ホーム独自の訓練は必要と思われる。入居者・職員と協力し落ち着いた誘導が出来るよう回数を重ねて実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、ご利用者様のバックグラウンドを把握しており、一人ひとりに合わせた声掛けを行ない対応している。	個人情報保護法については全職員が理解しており、居室の出入りはノックをして入室したり、本人の了解を得て行なっている。入居者の人格を尊重し呼び方は下の名前で「～さん」と呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送るうえで都度、意思の確認を行なっている。その際の声掛けの工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望がある際には都度、買物や散歩、ドライブ等、可能な限り行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みのスタイルを職員全員が把握しているので、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会にはご本人様の好きなメニューを提供している。又、オリジナルメニューの際にもご利用者様と相談しながら作っている。食事の支度、片付けも分担し一緒に行なっている。	各ユニット担当者が合同会議で献立を作成し毎月栄養士の指導で、食事を提供している。食事形態に配慮したミキサー食やとろみ食で補い、食事の準備は一緒に行っていた。刺身の日(八の日)は皆楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、食材担当が献立をたてた後、管理栄養士に提出し、指導やアドバイスを受けている。食事量、水分量が少ないご利用者様はチェック表を使いこまめにチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方に対しては声掛けを行ない、介助が必要な方には、その方に合った口腔ケア用品を使用し清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員全員がご利用者様の排泄のリズムを把握しているので、その時間で誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、その人の時間と職員のさりげない言葉掛けでトイレ誘導が行われている。一人ひとりの自立に向けた支援により、多くの方は普通のパンツで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入しており便秘がちな方に対しては寒天の提供や水分補給、ご本人様の状態に合わせた適度な運動を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿った入浴をして頂いている。入浴に拒否がみられる方に対してはご本人様の状態を見極め声掛けも工夫しながら入浴を促している。	毎日午前・午後の入浴も可能であるが、入浴をしたがらない方には声がけに工夫をし、3日目の方を優先に入ってもらっている。好きな入浴剤を使ったり季節の菖蒲湯やゆず湯などで楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態をみて都度、休息をとって頂いている。日中、余暇活動や役割への参加を促し夜間、安眠して頂けるよう努めている。又、夕方からは声のトーンをおとす等の配慮を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様全員の薬処方一覧表を記録ファイルに載せており用量、作用、副作用もすぐ確認出来るようにしている。又、医務記録や申し送りノートも併用し、漏れがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様同士の関係性を考慮したうえで、一人ひとりが力を発揮できる役割や習慣を毎日、継続して行なって頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそえるよう、可能な限り散歩やドライブを行なっている。又、ご家族に協力していただき外食や親類宅にお連れしていただいている。	自然環境のいい施設の周辺(十三塚公園・お観音様)を散歩している。今まで出掛けていた文化財の家も今は震災で使われていない。ドライブでは定義山・花トピア・竹駒神社などへ出掛け楽しまれている。その時々状況に合わせ楽しみの共有に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾を得て自己管理されている方もいる。又、自己管理が困難な方に対しても買物時には出来るだけ、ご自分で支払いを行なえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度、電話をかけられるようにしている。手紙や届け物があつた場合は、すぐにご本人様へ渡し、文字が見づらい方に対しては場所に配慮し代読行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の照明は明る過ぎないよう刺激の少ない電球色を使用している。又、家内には季節感を出す装飾にも心がけている。	12年前、県のモデルホームとして天皇陛下が視察された純和風の住まいである。囲炉裏のある佇まい・廊下には一緒に作ったクリスマス飾り付けや台所で手伝いをする入居者の姿があり、長イスではお仲間同士が会話を楽しみ居心地良く暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂の他に居間や廊下に設置してあるカウチで気の合うご利用者様同士が談笑出来たり一人でも穏やかに安心できる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具はご家族の協力を得て、以前から使っていた馴染みの物を持参していただき安心して過ごして頂けるよう努めている。	居室は3ユニットに違いはあるが洗面台は各部屋にある。ベット・タンス・仏壇・テレビ・コタツ・ポット・茶器セット等、多くの身の回り品を傍において「ここは私の家なの」と安心して生活している。家族の写真も飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員で都度、安全面での配慮を行なっている。又、ご利用者様の動きを観察し安全かつ安心して過ごして頂けるよう情報交換を行ない環境整備に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家 ユニット名 あやめ		
所在地	宮城県名取市手倉田字山212番地		
自己評価作成日	平成23年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が毎日を安心して、安全に、穏やかに過ごして頂けるように支援することを心がけている。毎日、利用者様の笑顔が絶えないように支援している。処遇の目的を達成する為、チームワーク、スタッフの連携が重要と考えている</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR名取駅から車で10分閑静な自然に恵まれた小高い丘の一角に「グループホームこもれびの家」がある。法人は多くの事業を展開しており、同敷地内にも他の事業所を併設して双方の協力関係は構築されている。開設して15年、入居者はその自然を感じながら家庭的な雰囲気の中で「ゆったり・いっしょに・たのしく・ゆたかに」ホームの理念を行動規範として生活している。昔からのかかりつけ医を大切にしており、ホームの協力医・訪問看護師との連携により2名の看取りを行った。また、月1回の家族面談を設け、そこでの意見等を介護計画に反映している。プランの説明や話し合いがあったとして、家族アンケート結果の評価も高かった。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 名取市グループホームこもれびの家)「ユニット名 あやめ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念があり、今年度はそこから各ユニット毎の目標を掲げ、職員だけでなく御家族様の目にも触れる場所へ掲示し、職員の意識を高め実践に努めている。	事業所理念に加え、昨年達成計画とした各ユニットの目標を掲げ「利用者の笑顔の引き出し」に向け努力している。年3回理念を見直し会議等で話し合っている。理念は各ユニットの玄関に掲示し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の小学校からの招待で学芸会に出向いたり、保育所との交流会も行っている。又、月に2回地域の方のボランティアで『お話し会』に来て頂いている。	暖かい日は十三塚公園を30分のコースで出掛けている。一方震災後、近くに仮設住宅が建てられ車の往来が激しくなった為、地域の住宅街までは出掛けていない。小学生や園児とは交流し、ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、ご利用者様の様子や対応等お伝えしている。又、実習や研修・見学等受け入れており、表情や声のトーンにも気配りが必要なこと等説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットからホーム長が会に参加している為、そのユニット毎の取り組みやご利用者様の様子等話し合い、それを毎月行われているスタッフ会議の中でも推進委員様より上がった意見を共有しより良い支援に向けて取り組んでいる。	会議は震災月以外は実施している。市の保険課長も毎回出席している。ホームの状況報告・風邪対策後、推進委員から福島の流れは大丈夫なのか？ホームからその辺は栄養士が管理している。など双方向に話し合われている。(会議議事録より)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課から、週末にも関わらず、運営推進会議への定期的出席をして頂いている。その他、必要な都度連携を図っている。	市の担当者とは常に連絡を密にしている。入居者の難しいケース等に直面した際にも、地域包括職員・関連部署・医師等と相談しアドバイスを頂いている。社協主催の「家族の会」に出席し認知症の理解を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていない。新規で入所されたご利用者様に対し、3日間の行動記録表を細かく記録し、まずは職員がいち早くご利用者様の状況を把握し、声掛け・対応の統一を図ることにより、落ち着いて生活して頂ける様支援に努めている。	身体拘束の弊害については全職員が研修等で熟知しており、拘束のないケアに努めている。新規入居者で、まだ、施設に馴染まない方の対応について、職員間で充分話し合い不安を与えないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな傷や内出血も見落とさず、必ず記録に残し報告し合い話し合いの場を設けている。又、月に1回行われているスタッフ会議の場でも検証を行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係文書の回覧や外部研修等で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書等の文書を渡し、契約の締結時に今まで御家族様が迷ったり不安に思われた事についてはより細かい説明を加えながら御理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族面談や運営推進会議でも各ユニットから2名づつ御家族様に推進委員になって頂いている為、ご意見やご要望については何かとやり取りが多く、逆に相談にも乗って頂いている。	毎月の家族面談で意見や要望等聞いている。体調の不安定な方が結婚式の招待状を貰ったが、医師のサポートもあり出席できた。本人は大変喜び記録に残し、意欲的に日記を付け始めるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各ユニットで勤務している為、現場で困っていることや解決されていない問題等においても、所長に相談し解決に向け取り組んでいる。又、スタッフ会議やケアプラン検討会においても話し合いの機会を設け、業務や支援に反映している。	スタッフ会議やケアプラン会議等で意見を聞く機会はある。研修への参加は、テーマを職員に聞いて決定し、自主研修なども本人の受けたいものを提案して参加し、日々のケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にご利用者様の状態の把握に努めている為、急な外来や人員の確保が難しい時も対応して頂いている。その中で職員の支援の悩みなど把握し、会議で検討したり、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員へ知らせ、希望や段階に応じての参加を勧め、各種研修へ職員も意欲を持って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や宮城県グループホーム協議会実践報告会への研修を通じて、事業所以外の人材の意見や経験を支援に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様や家族様より、より多くの情報を頂き、環境の変化による不安を取り除けるよう努めている。又、日常の会話の中から困っている事や不安を聞き取りながら信頼関係づくりをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご自宅へ行き御家族様が抱えている不安や要望等を聞いている。又、入所してからも面会や面談時等、連絡を密にとる事で関係作りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後細かい行動チェック表を記録し、職員間の声掛けの統一や対応に努めている。ご本人様に安心して頂くため御家族様に相談や電話での対応等協力を頂いたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を促し、必ず感謝の言葉を伝えていく。又、一緒におこなう事などで信頼関係をづくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本受診はご家族様に対応して頂いている。施設で行われる催し物への参加を促したりと出来るだけ一緒に過ごせる時間を作るようにしている。認知症の進行についても相談やご協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、以前より利用している病院などの医療機関や美容室に通うことや親戚、友人などの関係が維持できるよう支援をしている	本人の希望する馴染みの美容院やスーパーへ出掛けたり、ボランティアの「お話し会」や踊りの披露、親戚や友人の来訪もある。3ユニットを活かしての入居者同士の交流もあり関係性を途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の相性なども考慮して、一緒に活動できる環境や時間を作り、関わり合いを持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後情報の提供等、必要に応じ対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に合わせて、行ってはいるが困難な場合は職員で話し合い検討している	担当制を取っており、職員一人ひとりが日々のケアから思いや意向の把握に努めている。新規の入居者で入居の理解が出来ない方に、その思いを受け止めて職員間で話し合い意思統一を図り支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様から、話を聞いたりして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日その日の様子や健康状態を記録して多様なシグナルをキャッチしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のサービスに対する意向をしっかり確認して、それに即した介護計画を作成し、行った結果を家族に報告している	気づきの記録や申し送りノートを活かし会議等で話し合い、月一回の家族面談で意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリング・介護計画の見直しは毎月行っており、家族アンケートの評価は高かった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の記録や観察、聞き取り等での情報を連絡ノートで共有しケアプランを立案している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様や本人の要望を取り入れ、柔軟な支援を出来るよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での活動は出来てはいないが楽しみの持てる支援を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各人が通いなれた医療機関を継続しながら支援を行っている	かかりつけ医を継続しており家族と共に受診し、困難な場合は職員が対応し結果を報告しあっている。週一回の訪問看護師による健康管理、協力医の往診診療等、協力体制は確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な体調の変化や気づいたことでも訪看に連絡をして連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を家族様から伺い、病院関係者との情報交換等おこなっている。又ソーシャルワーカーを通し関係づくりをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族様の要望などを施設側と十分に話し合いはしているが地域関係者とは関係は薄いと思われる	今回は看取りを2名行っている。家族の協力も頂いた。対応指針・意思確認書を交わして段階的に話し合いが行われ看取りを実施している。職員間の研修で共有化を図り、医療との連携は構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて定期的に講習を受けている。又マニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難方法や避難場所を全員が周知している。	年1回消防署立会いで合同の避難訓練を夜間想定で行った。ホーム独自の訓練はまだであり、課題の2階ユニットの避難方法、部屋の避難済み確認の工夫等出来る事から実施されたい。自家発電機2台を確保した。	身体の状態低下に伴い入居者を不安なく階下へ誘導する為にも、ホーム独自の訓練は必要と思われる。入居者・職員と協力し落ち着いて誘導が出来るよう回数を重ねて実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を軽視するような言葉ではなく、やさしい言葉かけや対応を行っている	個人情報保護法については全職員が理解しており、居室の出入りはノックをして入室したり、本人の了解を得て行なっている。入居者の人格を尊重し呼び方は下の名前で「～さん」と呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先してしまう事も見られるが本人の意思を尊重して、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の性格や好みを把握して支援出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に食べており、出来る事を一緒におこなっている	各ユニット担当者が合同会議で献立を作成し毎月栄養士の指導で、食事を提供している。食事形態に配慮したミキサー食やとろみ食で補い、食事の準備は一緒に行っていた。刺身の日(八の日)は皆楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入、量についてはご利用者様ごとに考慮して調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各ご利用者様に応じて口腔ケアの支援を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導の他に訴え時や各自に合わせて行っている	個々の排泄パターンを把握し、その人の時間と職員のさりげない言葉掛けでトイレ誘導が行われている。一人ひとりの自立に向けた支援により、多くの方は普通のパンツで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつにはバナナやヨーグルトを提供したり、午後のおやつ時には牛乳等を提供している、毎日の日課に体操や家内歩行を取り入れている。又、主治医と相談し個々に合った改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定をして体調を確認しご本人様の意思を考慮して支援をしている	毎日午前・午後の入浴も可能であるが、入浴をしたがらない方には声がけに工夫をし、3日目の方を優先に入ってもらっている。好きな入浴剤を使ったり季節の菖蒲湯やゆず湯などで楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、各自の様子を見ながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容を理解し症状の変化の確認や誤薬がないように工夫に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る役割をして頂く事や塗り絵、ゲーム等、またドライブ等で気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を設けたり、御家族様のご協力を頂いたりしている。	自然環境のいい施設の周辺(十三塚公園・お観音様)を散歩している。今まで出掛けていた文化財の家も今は震災で使われていない。ドライブでは定義山・花トピア・竹駒神社などへ出掛け楽しまれている。その時々状況に合わせて楽しみの共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の了解を得たうえで職員が管理して希望に応じて、使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがき、手紙の返事を書けるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なく、居心地がよく花や窓の開閉などで季節が感じられるよう工夫している	12年前、県のモデルホームとして天皇陛下が視察された純和風の住まいである。囲炉裏のある佇まい・廊下には一緒に作ったクリスマスの飾り付けや台所で手伝いをする入居者の姿があり、長イスではお仲間同士が会話を楽しみ居心地良く暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やテレビ、本などを設置して思い思いにどこでも過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護度に応じ危険がないようレイアウトを考え状況に応じ変えている	居室は3ユニットに違いはあるが洗面台は各部屋にある。ベット・タンス・仏壇・テレビ・コタツ・ポット・茶器セット等、多くの身の回り品を傍において「ここは私の家なの」と安心して生活している。家族の写真も飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物はできるだけ排除し、個々が出来る事を行って頂いている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家	ユニット名	すみれ
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家内は混乱しないように、また生活しやすいように整理している。入居者様同士の関係性ができており、たがいに声をかけあったりと交流が多い。日々の生活が退屈で終わらないよう、余暇活動の促しを積極的におこなっており、入居者様と職員と一緒に家内の装飾掲示物を作ったりしている。日々ゆったり生活できるように見守りを中心とした業務分担もおこなっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR名取駅から車で10分閑静な自然に恵まれた小高い丘の一角に「グループホームこもれびの家」がある。法人は多くの事業を展開しており、同敷地内にも他の事業所を併設して双方の協力関係は構築されている。開設して15年、入居者はその自然を感じながら家庭的な雰囲気の中で「ゆったり・いっしょに・たのしく・ゆたかに」ホームの理念を行動規範として生活している。昔からのかかりつけ医を大切にしており、ホームの協力医・訪問看護師との連携により2名の看取りを行った。また、月1回の家族面談を設け、そこでの意見等を介護計画に反映している。プランの説明や話し合いがあったとして、家族アンケート結果の評価も高かった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 名取市グループホームこもれびの家 )「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念があり、今年度はそこから各ユニット毎の目標を掲げ、職員だけでなく御家族様の目にも触れる場所へ掲示し、職員の意識を高め実践に努めている。	事業所理念に加え、昨年達成計画とした各ユニットの目標を掲げ「利用者の笑顔の引き出し」に向け努力している。年3回理念を見直し会議等で話し合っている。理念は各ユニットの玄関に掲示し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の小学校からの招待で学芸会に出向いたり、保育所との交流会も行っている。又、月に2回地域の方のボランティアで『お話し会』に来て頂いている。	暖かい日は十三塚公園を30分のコースで出掛けている。一方震災後、近くに仮設住宅が建てられ車の往来が激しくなった為、地域の住宅街までは出掛けていない。小学生や園児とは交流し、ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、ご利用者様の様子や対応等お伝えしている。又、実習や研修・見学等受け入れており、表情や声のトーンにも気配りが必要なこと等説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットからホーム長が会に参加している為、そのユニット毎の取り組みやご利用者様の様子等話し合い、それを毎月行われているスタッフ会議の中でも推進委員様より上がった意見を共有しより良い支援に向けて取り組んでいる。	会議は震災月以外は実施している。市の保険課長も毎回出席している。ホームの状況報告・風邪対策後、推進委員から福島の流通物は大丈夫なのか？ホームからその辺は栄養士が管理している。など双方向に話し合われている。(会議議事録より)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課から、週末にも関わらず、運営推進会議への定期的出席をして頂いている。その他、必要な都度連携を図っている。	市の担当者とは常に連絡を密にしている。入居者の難しいケース等に直面した際にも、地域包括職員・関連部署・医師等と相談しアドバイスを頂いている。社協主催の「家族の会」に出席し認知症の理解を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていない。新規で入所されたご利用者様に対し、3日間の行動記録表を細かく記録し、まずは職員がいち早くご利用者様の状況を把握し、声掛け・対応の統一を図ることにより、落ち着いて生活して頂ける様支援に努めている。	身体拘束の弊害については全職員が研修等で熟知しており、拘束のないケアに努めている。新規入居者で、まだ、施設に馴染まない方の対応について、職員間で充分話し合い不安を与えないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな傷や内出血も見落とさず、必ず記録に残し報告し合い話し合いの場を設けている。又、月に1回行われているスタッフ会議の場でも検証を行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係文書の回覧や外部研修等で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書等の文書を渡し、契約の締結時に今まで御家族様が迷ったり不安に思われた事についてはより細かい説明を加えながら御理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族面談や運営推進会議でも各ユニットから2名づつ御家族様に推進委員になって頂いている為、ご意見やご要望については何かとやり取りが多く、逆に相談にも乗って頂いている。	毎月の家族面談で意見や要望等聞いている。体調の不安定な方が結婚式の招待状を貰ったが、医師のサポートもあり出席できた。本人は大変喜び記録に残し、意欲的に日記を付け始めるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各ユニットで勤務している為、現場で困っていることや解決されていない問題等においても、所長に相談し解決に向け取り組んでいる。又、スタッフ会議やケアプラン検討会においても話し合いの機会を設け、業務や支援に反映している。	スタッフ会議やケアプラン会議等で意見を聞く機会はある。研修への参加は、テーマを職員に聞いて決定し、自主研修なども本人の受けたいものを提案して参加し、日々のケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にご利用者様の状態の把握に努めている為、急な外来や人員の確保が難しい時も対応して頂いている。その中で職員の支援の悩みなど把握し、会議で検討したり、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員へ知らせ、希望や段階に応じての参加を勧め、各種研修へ職員も意欲を持って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や宮城県グループホーム協議会実践報告会への研修を通じて、事業所以外の人材の意見や経験を支援に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後3日間、本人の声や行動をより細かく記録しており、それをもとに本人が安心できる声掛け、触発の工夫をしたり、他入居者様との関係の仲立ちをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には御家族の要望等を聞く機会(御家族面談)をもうけている。また、入所前の調査時にも確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に実態調査に行き、必要な支援の見極めをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や余暇活動などを常に一緒におこない、お互いに協力しあう関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度のご家族面談の他、電話等でこまめに状況を伝える等、御家族との連絡を密におこなうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いた際にはまた来て頂けるよう声掛けおこなっている。今後はなじみの人を受け入れるだけでなく、出向く事も目標としていきたい。	本人の希望する馴染みの美容院やスーパーへ出掛けたり、ボランティアの「お話し会」や踊りの披露、親戚や友人の来訪もある。3ユニットを活かしての入居者同士の交流もあり関係性を途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席の配置や共有スペースでの過ごされる場所に配慮している。余暇活動においても、共同作業をしていただいたりとお互いで支え合える環境づくり、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	余暇活動の促しや、誕生日の食事など、できるだけ入居者様の声を聞き、希望に添えるよう努力している。	担当制を取っており、職員一人ひとりが日々のケアから思いや意向の把握に努めている。新規の入居者で入居の理解が出来ない方に、その思いを受け止めて職員間で話し合い意思統一を図り支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に調査をおこなっているが、それ以外にも気になった行動、言動があった際に御家族に確認したりと把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方等把握している。また、心身状態等も変動があれば日々記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員が集まり話し合いをおこなっている。また、毎月御家族面談もおこなっている。	気づきの記録や申し送りノートを活かし会議等で話し合い、月一回の家族面談で意見を聞いて介護計画を作成している。モニタリング・介護計画の見直しは毎月行っており、家族アンケートの評価は高かった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子でちょっとした変化があれば記録するよう努めている。新しい介護計画を実践するうえでも、日々のケアポイントとして掲げ、記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合った福祉用具をレンタルしたり、本人やご家族のニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がそれぞれ馴染みの病院にかかっていたり、近くのスーパーに買い物にいったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の希望で外来受診から往診に切り替えたり、入居者様それぞれが馴染みのかかりつけ医にかかっている。	かかりつけ医を継続しており家族と共に受診し、困難な場合は職員が対応し結果を報告しあっている。週一回の訪問看護師による健康管理、協力医の往診診療等、協力体制は確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が健康チェック、相談をおこなってくれている。また、緊急時等も状態確認にきていただいている。情報、相談、報告は密におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期退院できるように医療機関と連絡をとっており、入院中も病状伺いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々にADL低下や認知力の低下が見られてきた段階で御家族、医療機関等と話す機会をもうけている。	今回は看取りを2名行っている。家族の協力も頂いた。対応指針・意思確認書を交わして段階的に話し合いが行われ看取りを実施している。職員間の研修で共有化を図り、医療との連携は構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習等あり、研修おこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練おこなっており、スプリンクラーも設置されている。	年1回消防署立会いで合同の避難訓練を夜間想定で行った。ホーム独自の訓練はまだであり、課題の2階ユニットの避難方法、部屋の避難済み確認の工夫等出来る事から実施されたい。自家発電機2台を確保した。	身体の状態低下に伴い入居者を不安なく階下へ誘導する為にも、ホーム独自の訓練は必要と思われる。入居者・職員と協力し落ち着いた誘導が出来るよう回数を重ねて実施されたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれにあった声掛けや対応に努めている。	個人情報保護法については全職員が理解しており、居室の出入りはノックをして入室したり、本人の了解を得て行なっている。入居者の人格を尊重し呼び方は下の名前で「～さん」と呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動でもいくつかの選択肢から選択していただいたり、ケアする際にも本人の意向を確認するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者様の状態に合わせて余暇活動など促している。(ドライブ、散歩、室内レク等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人それぞれの好みそうな衣類を着用して頂く。また、髪留めをしたり外出時には外出着に着替えて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけおこなう入居者様は限られてしまうが、本人の好みに合わせて盛り付け時も配慮したり、誕生会には本人の希望食を召し上がっていただいている。	各ユニット担当者が合同会議で献立を作成し毎月栄養士の指導で、食事を提供している。食事形態に配慮したミキサー食やとろみ食で補い、食事の準備は一緒に行っていた。刺身の日(八の日)は皆楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない入居者様は個別に食事量チェックをおこなったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に合った口腔ケアおこなっている。また、隔週で歯医者も来訪し、口腔内チェックおこなっていただき、アドバイスもいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表記入し、入居者様の排尿パターンに応じた誘導、交換行っている。	個々の排泄パターンを把握し、その人の時間と職員のさりげない言葉掛けでトイレ誘導が行われている。一人ひとりの自立に向けた支援により、多くの方は普通のパンツで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便滞りがちな場合は、牛乳を飲用していただいたり、家内歩行を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	五月には菖蒲湯にしたり、冬場は入浴剤を使用している。また、入浴の声掛けも無理強いせず、表情等をみて促している。	毎日午前・午後の入浴も可能であるが、入浴をしたがらない方には声がけに工夫をし、3日目の方を優先に入ってもらっている。好きな入浴剤を使ったり季節の菖蒲湯やゆず湯などで楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間パジャマに着替えずに生活してきた方は、そのまま休んでいただいたり、暑がりな方は布団を薄手にする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加薬が処方された際には特に注意をはらうよう日々のケアポイントに掲げ、職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換として、ドライブに出かけたり、入居者様一人ひとりの興味のある活動を促すように配慮している。(塗り絵、パズル、風船バレー、読書、音楽等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会をもうけたり、ご家族の協力をいただき、ご家族で外出していただいたりしている。	自然環境のいい施設の周辺(十三塚公園・お観音様)を散歩している。今まで出掛けていた文化財の家も今は震災で使われていない。ドライブでは定義山・花トピア・竹駒神社などへ出掛け楽しまれている。その時々状況に合わせて楽しみの共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持出来る方、希望する方がいらっしやらないが、希望があり、管理できる方であればおこなっていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望があった際に御家族の了解をいただき入居者様から電話を入れたり、電話があればとりついでりしている。また、手紙なども受け取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないよう装飾等配慮している。季節の物を題材に塗り絵や写真をおこなっていただき、壁に貼り出す等工夫もしている。	12年前、県のモデルホームとして天皇陛下が視察された純和風の住まいである。囲炉裏のある佇まい・廊下には一緒に作ったクリスマスの飾り付けや台所で手伝いをする入居者の姿があり、長イスではお仲間同士が会話を楽しみ居心地良く暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂といった共有スペース以外にも所々に椅子を設置し、気の合った方達で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱がないように室内はシンプルにしてあるが、馴染みの家具や置物を置いたりと安心できるよう配慮している。	居室は3ユニットに違いはあるが洗面台は各部屋にある。ベット・タンス・仏壇・テレビ・コタツ・ポット・茶器セット等、多くの身の回り品を傍において「ここは私の家なの」と安心して生活している。家族の写真も飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分がよく使用するトイレがわかるよう印をつけている。また、安全に生活できるよう危険個所のチェックをおこない、見直すよう心がけている。		